

## 矯正見聞録 第 151 回 UNAFEI 研修課程を終えて

文：ユン・ジョンウォン ソウル拘置所 矯尉（刑務職 7 級公務員）

科学的な再犯予測によってこそ再犯防止効果が得られる

5 月 15 日から 6 月 12 日まで東京都府中市にある国連アジア極東犯罪防止研修所 (UNAFEI: The United Nations Asia and Far East Institute for the Prevention of Crime and the Treatment of Offenders) の第 151 回国際研修課程に参加し「科学的再犯予測分析に基づく犯罪者処遇プログラムの開発及び運用」に関する研究を終えて帰国した。1962 年、国連と日本政府の協定により設立された UNAFEI は、東アジア及び太平洋国家が相互協力して刑事司法体系に関する発展的方法を模索している。韓国は 1976 年以降、毎年 1 名の研修生を派遣し、新たな矯正技法を共同研究している。

参加者の関心を集めた矯正再犯予測指標 (CO-REPI)

毎年テーマを替えて UNAFEI が主管する研修課程には、東アジア及び太平洋国家を含む多数の国々の矯正及び刑事司法関係者が参加し、政策に関する様々な意見を交換し、情報を共有しながら共に発展するための案を模索している。

5～6 月に開催された 2012 年度第 151 回国際研修課程にはコロンビア、ヨルダン、モルディブ、パラオ、フィリピン、コンゴ民主共和国、モロッコ、サモア、香港、韓国から各 1 名ずつと、タイ 2 名、ケニア 2 名、バヌアツ 3 名等、17 名の外国人が参加した。日本からは検察官 2 名と裁判官 1 名、家庭裁判所調査官 1 名、保護観察官 1 名、矯正職員 2 名が参加し総勢 24 名が「実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇 (Evidence-based treatment of offenders)」というテーマで各種セミナーや講演、関連機関訪問等のプログラムを消化した。

今回のテーマに選定された「実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇 (Evidence-based treatment of offenders)」とは、言葉のとおり犯罪者の社会復帰のための各種処遇プログラムを開発し活用する際、「犯罪者の再犯可能性を科学的に分析した結果を基に開発し、選別的、集中的に実施する処遇」である。こうした研究はカナダや米国で発展し、最近ではこの理論を基に開発された各種の矯正処遇プログラムが日本の刑事施設で活用されているという。

テーマ研究のため各国の参加者が自国の再犯予測分析ツール及びこれに基づく各種の処遇プログラムについて発表し、お互いに意見交換する時間を持った。また、グループ別活動を通じて効果的な再犯防止プログラムの開発について意見を交わした。

韓国の事例として、2011 年に開発された矯正再犯予測指標 (CO-REPI) や現在矯正施設で活用している矯正心理検査の内容を中心に発表した。参加者はこの矯正再犯予測指標に大きな関心を寄せていた。これは、研修に参加したほとんどの国に正確で科学的な再犯予測分析ツールがないためだと思われる。

一方、日本では韓国と同様に再犯予測分析ツールを活用し、分析結果に基づき犯罪者の特性及び罪質に応じて多様な処遇プログラムが開発されており、学ぶべき点が多くあった。

また、韓国と同様に日本でも性犯罪に対する警戒心が高まり、再犯防止のための処遇プログラムの開発及び活用に多くの努力を傾けているという点が印象に残った。特に韓国では性犯罪者の再犯防止に対する解決案として科学的去勢等の方法が強調されている半面、日本では心理治療プログラム等による再犯防止に重点を置いているという点は注目すべきだ。

#### 認知行動理論に基づく処遇プログラムに高い再犯防止効果

各国参加者の発表以外にも米国、カナダ、シンガポールなどの刑事司法の専門家によるレベルの高い講義により、効果的な犯罪者の再犯予測分析及びそれに基づく適切な処遇プログラムについて深く考察することができた。

米国のラテッサ博士(Dr. Latessa)は「効果的な再犯防止プログラムの条件は何か？」というテーマで講義をし、犯罪者の処遇プログラムを成功させるための条件について説明した。彼は「ブートキャンプ(boot camp：被収容者に対する強制労役と過酷な規律遵守等の厳しい制裁を実施する矯正施設)は犯罪者の犯罪要因に焦点を当てていないため、再発防止効果がほとんどなく、犯罪者を脅したり犯罪者に恥をかかせたりするプログラムなどの非行動的なプログラムも長期的に再犯防止の役に立つという実証的根拠はほとんどない」と主張する。「処罰や制裁中心のプログラムよりは認知行動理論に基づく処遇プログラムの方が高い再犯防止効果を示した」と強調した。

また、カナダのモティウク博士(Dr. Motiuk)は「再犯予測はどのように行われるべきか？」というテーマの講演で「犯罪者に対する再犯防止プログラムは科学的で正確な再犯予測結果の下で行われなければ、求める効果が得られない」とし、「再犯予測分析ツールは犯罪者の性別、年齢、学歴、前科等の静的な要因と心理状態、人間関係等の動的な要因をすべて考慮し、矯正施設内の保安上の危険及び出所後の社会での再犯可能性をともに考慮しなければならない」と主張した。

「シンガポールの矯正施設における被収容者処遇プログラムの紹介」を担当したレオ氏(Mr. Leo)は、シンガポールの場合、過去には矯正職員の職業満足度や自負心が低く、被収容者に対する各種処遇プログラムの実施は不十分だったが、矯正職員の待遇改善と持続的な専門化教育により士気と自負心が高まり、特性化された被収容者処遇プログラムが活発に実施されるようになったと語った。これは、矯正公務員の職業的満足度が他の公務員に比べて低い韓国でも注目すべき点だと考える。また、レオ氏は被収容者の安定的な社会復帰のためには地域社会と融合した処遇プログラムが重要だと力説した。

この他にも、東京地方検察庁を見学した後、法務大臣を表敬訪問した。東京郊外の府中刑務所も見学したが、日本で最も規模が大きい同刑務所には、ほぼ定員の3,000名程が収容されている。職員の勤務条件は厳しいものがあるが、職員の職業的自負心は大変強いという。

今回の UNAFEI 研修を通じて、各国の矯正行政をはじめとする刑事司法システムについて多様な情報に接し、韓国の矯正行政が補完し発展させるべき部分が何なのかを考える機会になった。一方で、韓国の矯正行政が米国やカナダ、日本等の先進国に比べ、決して後れを取っているわけではないと改めて感じる事ができた。特に、韓国の再犯率が他国より著しく低いという事実が、他国からの参加者に対して強い印象を与えたことに満足した。

注：この記事は、研修参加者が韓国の矯正職員雑誌に掲載した記事の原文を、当研修所で和訳したものである。